

共通科目

芸術を通じてさまざまな人に多彩な学習経験をもたらし、その創造性や新しい可能性を引き出していくために「学部共通専門教育科目」、「総合教育科目」を共通科目として用意しています。

TR テキストレポート科目
 TW テキスト作品科目
 TX テキスト特別科目
 S スクーリング科目
 GS 藝術学舎科目
 WS Webスクーリング科目

必 必修科目
 選必 選択必修科目
 選 選択科目

※下記で紹介する科目は2018年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。

学部共通専門教育科目(全学科・コース履修可)

芸術を学ぶ学生にとって基盤となる知識・見識を養うための科目群です。

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
学芸専門講義1～10*	GS	選	各1		対面授業により、芸術の各ジャンルの基礎的な内容に関わる講義を受けます。
学芸専門演習1～10*	GS	選	各1		対面授業により、実地に基礎的水準の専門的技術を学びます。
芸術理論1	TR	選	2	有	東洋の芸術理論を実際のテキストに触れながら理解し、今日的な意味を考えます。
芸術理論2	TR	選	2	有	西洋の生み出した芸術理論の数々の古典に学びつつ、芸術についての思索を深めます。
芸術史講義(日本)1	WS	選	2		日本の造形芸術について、その成立から平安時代、鎌倉時代を中心に学びます。
芸術史講義(日本)2	WS	選	2		日本の造形芸術について、近世および近代の絵画・工芸を中心に学びます。
芸術史講義(日本)3	WS	選	2		日本の文学、芸能、音楽の古代から近世に至るまでの流れを辿ります。
芸術史講義(日本)4	WS	選	2		江戸時代から明治期に至るまでの文学、歌舞伎、話芸、民俗芸能について学びます。
芸術史講義(アジア)1	WS	選	2		中国の古代から明清時代に至るまでの芸術史を学びます。
芸術史講義(アジア)2	WS	選	2		朝鮮半島、西アジア、中央アジア、インドなどアジア各地の芸術史を学びます。
芸術史講義(アジア)3	WS	選	2		中国の文学、音楽、舞台芸術について、古代から19世紀までの流れを学びます。
芸術史講義(アジア)4	WS	選	2		朝鮮半島、インド、東南アジアの文学、上演芸術について学びます。
芸術史講義(ヨーロッパ)1	WS	選	2		ヨーロッパの造形芸術の成立から盛期ルネサンスまでの展開を理解します。
芸術史講義(ヨーロッパ)2	WS	選	2		盛期ルネサンスから20世紀はじめまでの造形芸術の歴史を辿ります。
芸術史講義(ヨーロッパ)3	WS	選	2		ヨーロッパの文学、音楽、舞台の歴史を古代ギリシアから18世紀まで辿ります。
芸術史講義(ヨーロッパ)4	WS	選	2		18世紀・19世紀のヨーロッパ諸国の上演芸術作品の諸潮流を学びます。
芸術史講義(近現代)1	WS	選	2		20世紀初頭から21世紀まで、特に欧米での造形芸術の流れを学びます。
芸術史講義(近現代)2	WS	選	2		アジアやアフリカなどの動向や建築、写真、ファッションなどの歴史を学びます。
芸術史講義(近現代)3	WS	選	2		19世紀末からの文学、舞台芸術の流れを社会の動きとあわせて学びます。
芸術史講義(近現代)4	WS	選	2		近現代の欧米とアジアの音楽、映画そしてサブカルチャーの変遷を学びます。

※「学芸専門講義1～10」「学芸専門演習1～10」は藝術学舎の単位連携科目です。

学部共通専門教育科目(芸術学科・美術科・デザイン科のみ履修可)

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
造形基礎演習1	TW	選 ※	各2		造形活動に携わろうとする者にとって、最も基礎となる事柄は、「自分の目で見る」ことである。この科目では身近な物をデッサンすることで「見ること」を問い、「見る力」のありかを確認する。そして、「見ることはおもしろい」「描くことが見ることを鍛える」「デッサンはおもしろい」という勇気と確信をつかむ。 ※美術科必修
造形基礎演習2					
立体造形演習1	TW	選	各2		自然の中の形に含まれている、躍動感や緊張感やバランスの美しさといったさまざまな美的要素を立体的な形の中で追求する。
立体造形演習2					
色彩表現基礎	TW	選	2		テキストのレッスンに取り組むことで、日常生活の中で色彩を意識し、私たちをとりまく色彩環境に鋭敏に回答していくための力を身につける。また、先生方の講義録を通じて、色彩の現場の多様さを知る。
形態表現基礎	TW	選	2		芸術に携わる全ての者にとって、その制作・研究の対象となる『形』。この科目はテキストのレッスンを通して、周りの『形』を見直す。『形』とは何か?を考え、『形』を発見、観察し、自ら造形する事によって、『形』に対する感性を養う。
美学概論	TR	選	2	有	従来「美学」と呼ばれてきたAestheticsを、その原義を採用して「感性論」と名づけ直し、いわゆる「美」や「芸術」の問題を改めて人間の経験・認識のあり方全体と関わるものとして考察する。
美術史(日本)1	TR	選	各2	有	これらの科目は日本、ヨーロッパ、アジア、近現代の美術史について学ぶための入門的な科目である。それぞれ指定された6つの作品について調査し、素描とレポートを作成する。美術史の基礎知識と全体像の把握、そして美術史を調べる基本的なスキルの獲得を目指すとともに、それぞれの地域・時代において「芸術」がどのようにとらえられてきたか、また変貌してきたかを歴史的経緯をふまえて理解する。
美術史(日本)2					
美術史(ヨーロッパ)1					
美術史(ヨーロッパ)2					
美術史(アジア)1					
美術史(アジア)2					
美術史(近現代)1					
美術史(近現代)2					
工芸1	TR	選	2	有	陶芸の中心はアジアである。特に中国・韓国・日本の諸地域の陶芸史を通観し、時代や地域によってどのような陶磁器が創られていったかを学ぶ。陶芸作品が制作された時代と地域を強く意識して、それぞれの特色を把握する。現代の陶芸には、過去の作品がどのように反映されているのか、またどの点が独創的なのかを考える。
写真論1	TR	選	各2	有	写真というメディアの光学的・化学的な基本原理と、複製技術としての性格、そして「写真の歴史」について基本的な知識を身につける。その上で、今日の社会におけるさまざまな写真表現に触れながら、その意義と可能性を探っていく。
写真論2					
デザイン論1	TR	選	各2	有	産業化、ポスト産業化の時代を経て、環境・資源などの問題を地球的規模で見直していくうえで、今ほどデザインの力を必要としている時代はない。近代のさまざまなデザイン論の展開を踏まえ、デザインの諸領域の実践を反省し、新しい時代におけるデザインの意味・役割を展開する。
デザイン論2					
住宅概論	TR	選 ※	2	有	湿潤多雨、高温、残雪など気候への対応、地震への技術的対応、芸術の導入や社会・制度の変化における住宅様式の転用や変容など、第二次世界大戦後のいわゆる戦後小住宅の時代にまで綿々とつながる日本住宅の工夫と変遷を学ぶ。 ※建築デザインコース必修
都市概論	TR	選 ※	2	有	都市計画とは「われわれは如何に生きるべきか」を社会の仕組みとして計画することである。便利、安全、快適なまちづくりは都市計画の基本であり、そのための技術や制度、法律は時代の推移に従って変化し続け、社会の大きな課題であり続ける。その変遷を概説し、建築と都市の関係を学ぶ。 ※建築デザインコース必修
建築史1(近代)	TR	選 ※	2	有	科学技術や抽象芸術の発展といった社会や文化の大きな変化が、建築にどのような影響をもたらしたか、逆に建築の大きな変化が社会や文化にどのような影響をもたらしたか、について学ぶ。また近代では、建築家が次々に新しい理念や具体的なあり方を示し、大きな役割を果たすようになった。その建築家の動向と作品の特徴を学ぶ。 ※建築デザインコース必修

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得 試験	履修内容
建築史2(西洋)	TR	選 ※	2	有	ヨーロッパの建築の時代様式をガイドとして、古代ギリシャから19世紀までを概観する。各時代様式の特徴・理論、代表的建築・建築家とそれらの変遷の過程を学ぶ。 ※建築デザインコース選択必修
建築史3(日本)	TR	選 ※	2	有	日本の建築と都市の歴史を通して、伝統的建築に親しみながら広く知識を得るとともに、日本列島において建築・都市がどのように成立し、時代とともに如何なる空間的・時間的変容を遂げたのかを学ぶ。 ※建築デザインコース選択必修
建築環境工学	TR	選 ※	2	有	建築物の光環境、日射環境、空気環境、環境音環境、熱環境、湿気環境などの基本事項を確実に理解し、建築における環境工学の課題や重要性を学ぶ。 ※建築デザインコース必修 ※空間演出デザインコースで二級建築士試験受験資格を取得する方は選択必修
建築材料	TR	選 ※	2	有	建物がどのような材料で形づくられていて、それがどのような現象と背景を併せもつのかを理解する。また、現存する建物から創意工夫や試行錯誤の歴史を読みとり、想像することを通じて未来の建物をつくりだす力を養う。 ※建築デザインコース必修
建築設備	TR	選 ※	2	有	建築設備に関する基礎的な原理や技術を理解し身につける。電気設備、衛生設備、空調設備の基本システムを習得し、照明・衛生器具・空調負荷の基礎を学ぶ。 ※建築デザインコース必修 ※空間演出デザインコースで二級建築士試験受験資格を取得する方は選択必修
建築生産	TR	選 ※	2	有	企画、設計、施工、保全から構成される建築生産プロセスを対象にして、その活動を構成する主体(人や組織)とその役割について学ぶ。 ※建築デザインコース必修 ※空間演出デザインコースで二級建築士試験受験資格を取得する方は必修
建築法規	TR	選 ※	2	有	建築家は、プロジェクト・マネージャーとしての設計全般について把握しながら計画をまとめていくことが求められる。これらの設計をまとめるにあたり、建築基準法及びその関連法令がどのような形で、影響を及ぼしているかについて学ぶ。 ※建築デザインコース必修 ※空間演出デザインコースで二級建築士試験受験資格を取得する方は必修
構造力学1	TR	選 ※	各2	有	力の基礎や力のつりあいを理解し、静定梁やトラスなどの構成部材に力が作用した場合に生じる断面力や応力度、変形などを算定するための基礎知識を学ぶ。 ※建築デザインコース必修 ※空間演出デザインコースで二級建築士試験受験資格を取得する方は必修
構造力学2					
造園史1(日本)	TR	選 ※	各2	有	庭園の歴史を洋の東西にわたって概観し、日本庭園の時代別様式や西洋庭園の立地と時代ごとの様式の成立などについて論じる。 ※ランドスケープデザインコース必修
造園史2(西洋)					
環境の保全と計画1(水土緑)	TR	選 ※	各2	有	各地で展開される環境保全の事例を調査し、取り組みに対する特徴や問題点を考察し、環境保全の進め方について学ぶ。 ※ランドスケープデザインコース必修
環境の保全と計画2(里山)					
ランドスケープデザイン原論1 (造園固有の方法論)	TR	選 ※	各2	有	芸術としてのランドスケープデザインをめざすにあたって、造園家としての基本的な姿勢、いわば心構えを自らの内に確立することを学ぶ。また、伝統的日本庭園が有する自然の有り様や審美性を通して、自らの自然観や美意識を醸成し、現代造園における創造の糧とすることを学ぶ。 ※ランドスケープデザインコース必修
ランドスケープデザイン原論2 (作庭から維持管理)					
マーケティング概論	TR	選 ※	2	有	企業のあらゆる活動に関連しているマーケット発想の基礎知識を学び、実際のマーケティングの流れや狙いを具体的に探ることで、各要素を理解する。 ※空間演出デザインコース必修
ブランディング デザイン論	TR	選 ※	2	有	多様化する消費者の行動の中にあっても、輝きを放つ商品を創造し、その価値を発信し続ける企業のブランディングデザインについて実例を通して学ぶ。 ※空間演出デザインコース必修

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
インテリア計画論1	TR	選※	各2	有	インテリアの概念の発生からその変遷と確立までを検証した後、インテリア計画のプロセスを把握した上で、空間の構造、構法からインテリア空間の構成要素とその組み合わせまでを理解する。各空間における機能とインテリア計画上の要点について学び、今後の計画、設計への活用可能な知識の習得を目的とする。 ※空間演出デザインコース必修
インテリア計画論2					
空間構成材料	TR	選※	2	有	建築を構成する建築構造躯体として利用される構造材料と、建築の内部、外部を彩る内外装材について、その素材特質や安全性、さらには五感に関わる色彩やテクスチャなどの快適性などのそれぞれの特性を把握し、空間構成に使用される材料について学ぶ。 ※空間演出デザインコース必修
生活空間デザイン史	TR	選※	2	有	住居空間を中心とした空間デザイン及びデザイン思想の変容について理解し、空間デザインに関わる諸現象、諸概念を基礎的な事柄から学び、設計活動に役立つ知識、教養を身につける。 ※空間演出デザインコース必修
芸術教養基礎	S	選	1		今日の芸術活動を支えているさまざまな価値観や制度は、長い歴史のなかで徐々に形をとってきたものである。本科目ではそれらの成り立ちを反省し、また芸術の問題を考える際のキーワードのいくつかの意味を考えることで、これから大学で芸術の制作や研究にあたるための基礎的視座をうることを目標としている。
著作権研究	S	選	2		著作権は、今やアーティスト、デザイナー、プロデューサー、研究者、つまり私たちと切っても切れないものとなっている。自ら作品や論文を作る場合にも、またそれらを守っていくためにも、著作権についての知識は必須である。この講義では、法学・法律学的な視点から「クリエイター」の権利である著作権について考える。

総合教育科目(全学科・コース履修可)

〈■知の領域 ■技の領域 ■地域の領域〉

幅広く「知」を育み、「技」と眼をきたえ、「地域」との関わりや取り組みへと結実させられる科目群です。

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
ことばと表現	TR	選	1	有	レポートや論文など、大学で日本語を書く際の基礎を学びます。
論述基礎	TR	選	2	有	学術的な文章を書くための基本を学びます。
情報	TR	選※	2	有	「情報」に関する総合的な教養を学びます。 ※建築デザインコース必修
外国語1	TR	選	2	有	英語による自己表現の初歩を身につけます。
外国語2	TR	選	2	有	異文化理解のためのアプローチとして他言語の構造や表現を学びます。
古典日本語	TR	選	2	有	漢文古文をあらためて学び、しっかりした日本語の教養を身につけます。
数学	TR	選	2	有	数学的な思考法としなやかで合理的な知性を育てます。
音楽	TR	選	2	有	演奏技術ではなく、感性と知性とを調和させるものとしての音楽を学びます。
身体	TR	選	2	有	特定の流派にとらわれることなく、心身の整え方を習得します。
日本の憲法	TR	選	2	有	日本社会を作る基本法としての憲法のありかたを学びます。
地域環境論	TR	選	2	有	地域の環境を考えるための視点を獲得します。
都市デザイン論	TR	選	2	有	都市や住環境のあり方をデザインという観点から考察します。
詩学への案内	TR	選	2	有	詩学に関する書物を読み解くことで、学問領域の入り口に立ち、さらにその先に興味を向けて考察します。
哲学への案内	TR	選	2	有	哲学に関する書物を読み解くことで、学問領域の入り口に立ち、さらにその先に興味を向けて考察します。
学際的な知への案内	TR	選	2	有	様々な学問に関する書物を読み解くことで、学問領域の入り口に立ち、さらにその先に興味を向けて考察します。
哲学と思想	TR	選	2	有	世界や人間という謎に立ち向かうための思考法を手に入れます。
心理学	TR	選	2	有	人間の心のはたらきを探る学問的方法について学びます。

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
政治学	TR	選	2	有	政治というアクチュアルな問題を考察する学問的方法を学びます。
経済学	TR	選	2	有	経済現象を理解するための考え方を学びます。
社会学	TR	選	2	有	人間社会の今日的状況を理解するための枠組みを考えます。
宗教学	TR	選	2	有	宗教を社会的・文化的現象として捉え、それを解明するための学問的方法を学びます。
日本史	TR	選	2	有	資料を通じ、先入観にとらわれず日本の歴史を考察する方法を身につけます。
アジア史	TR	選	2	有	アジアの諸地域のあいだの相互交流と現代に至る歴史を学びます。
西洋史	TR	選	2	有	西洋史について基本的な歴史的事実と今日との関係について学びます。
生態学	TR	選	2	有	生物のさまざまな種のあいだの関係を特定の自然環境を例に考察します。
列島考古学	TR	選	2	有	日本列島の歴史を「モノ」を通じて考える方法について学びます。
文化研究1	TR	選	2	有	「子ども」の文化や「若者組」など、近代以降作られた心身の枠組みを考察します。
文化研究2	TR	選	2	有	第二次大戦後のさまざまな日本の大衆文化を通じて現代社会のありかたを考えます。
文化研究3	TR	選	2	有	写真、映画、TVなど映像文化の起源やそれが現在の文化に及ぼす影響を考えます。
色彩と形	TR	選	2	有	身のまわりの素材をもとに、「かたち」と「色」のありかた、また面白さを探ります。
世界単位を考える	TR	選	2	有	国家や行政区に限らない新たな「単位」を考え、世界に対する新しい見方を得ます。
地域を探る	TR	選	2	有	自分の居住地にあらためて目を配ることによって、世界を把握する手法を得ます。
京都を学ぶ	TR	選	2	有	日本の文化の中で重要な地位を占める京都の文化について、成立と特色を学びます。
東北を学ぶ	TR	選	2	有	日本文化のなかで京都に劣らず重要な要素を持つ東北の文化の特徴を学びます。
学芸基礎講義1～10*	GS	選	1		対面授業により、さまざまな領域の学術・芸術の講義に触れて自らの教養を養います。
学芸基礎演習1～10*	GS	選	1		対面授業により、実地にさまざまな学問的・芸術的方法のありかたについて学びます。

※「学芸基礎講義1～10」「学芸専門演習1～10」は藝術学舎の単位連携科目です。

総合教育科目(芸術学科・美術科・デザイン科のみ履修可)

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
日本文化論	TR	選	2	有	仏教に基づく「地獄」についての思想を通じて、日本文化についての一つの視野と思想を持つことの力を学ぶ。
ヨーロッパ文化論	TR	選	2	有	ヨーロッパ文化の形成において重要であった歴史上の出来事や地理的条件を理解し、その過程について考えると同時に、ヨーロッパの芸術作品(美術・建築・デザイン)について、考察を深める。
中国文化論	TR	選	2	有	辛亥革命前後の時代を背景に、妄想者の意識・行動をたどりながら、中国社会の欺瞞性を考察し、そこから始まる中国の新しい歩みについて学ぶ。
英語1A	S	選	1		英語を聞く、読む、話す、書くという作業の基本を練習しながら、それぞれが英語を理解し使う同じ作業であるということを体験する。ビデオリスニング、簡単な文章を使用したニュースコラムや短編物語の読解、簡単な英会話、感想文の練習など、形を変えながら英語に馴れ、自信をつけていく。
体育理論	TR	選	2	有	個人がWELLNESS(自分の健康は自分で守る)との関わりの中から、“からだところ”にやさしい健康づくりについて学び、身体表現活動によって身体がいかに改善され、より高いQOL(Quality Of Life)を創造し身につけることができたかを確認する。21世紀の地球環境と人間の健康に関してより多くの分野にわたる健康情報なども学習する。
体育実技	S	選	1		「気操体健康法」について学び、「体力測定」「ウォーキング」「健康スポーツ」等を実施する。幅広い年齢層の方を対象にしており、激しいスポーツは実施しない。今後の生活習慣の中で、自分なりの健康づくりプログラムを応用活用し、いきいきと幸せな人生を過ごすためのウェルネス(WELLNESS)な健康づくりを実践してゆく。

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得 試験	履修内容
メディア論への招待	S	選	2		マルチメディア時代を歴史・社会的視野をもって捉え、メディア・リテラシーの意識と考え方を学びます。
哲学への招待	S	選	2		過去の思索に学びながら、私たちが未来を構想するための原理の探求をめざします。
考古学への招待	S	選	2		具体的事例を交えつつ、考古学という学問の研究方法与理論的な背景を学びます。
民俗学への招待	S	選	2		民俗学の成り立ちから、学問的な特徴、研究手法などを学びます。
自然学への招待	S	選	2		生物的自然とその基盤となる植生への理解から、人間と自然の関わりについて学びます。
地球科学への招待	S	選	2		宇宙が誕生してから今までの宇宙の歴史を科学的に概観します。
都市環境への招待	S	選	2		実際の都市空間に触れ、そこに潜在したり現れたりする「近代」について考えます。
文学研究への招待	S	選	2		様々な文学作品が示す固有の世界観を受け取り、ものの見方を深め養う可能性を探ります。
映画研究への招待	S	選	2		19世紀末の映画の発明以降の技術・技法の発展、時代背景との関わり、ドキュメンタリーやドラマなどジャンルの確立といった歴史的な流れをたどるとともに、批評的な観点についても学びます。
日本史への招待	S	選	2		先史時代から近現代までの日本の有り様を、古文書や考古遺物などさまざまな「モノ」を中心に俯瞰していきます。
社会学への招待	S	選	2		私たちの身近なことからにおける権力関係について学びます。
芸能史	S	選	2		各時代と分野を代表する芸能と芸道の第一人者の実演を通して、古代から近世に至る多様な芸能・芸道の発展の具体相を学びます
入門デッサン1 (静物1:自然物を一つ描く)	S	選	1		初めての方も、苦手な方も、腕に自信がある方も、全ての方が、デッサンの基本の基本を、しっかり学び、その大切さ楽しさに触れるためのスクーリング。一つの自然物に向き合い、デッサンを通して、今以上に深くものを見ることを体感する。
入門デッサン2 (静物2:自然物と人工物を描く)	S	選	1		何をどのように意識し、描画材をいかに扱うのかといった、デッサンの基本の基本的理解を、一歩ずつ深めながら観察力を磨く。自然物と人工物に向き合い、ものともは関係によって見えていることを知り、描くほどに、見ているままのモチーフに近づける楽しさを体感する。
入門デッサン3 (静物3:自然物と人工物のパースを描く)	S	選	1		全ての表現活動の基礎と言われるデッサン。デッサンの基本の基本を学ぶと同時に、その奥深さを体感。動かないモチーフ＝静物によって、視点を意識し、ものを見ることの不思議さと楽しさを学ぶ。自然物と、デッサンの基本とされる、パースが生じる人工物に向き合う。
入門デッサン4 (ヌード・クロッキー)	S	選	1		デッサン力とは、見方の工夫と言える。その工夫の仕方を、ヌードモデルのクロッキーによって体感。短時間で、何十枚と描き続けることによって、形を捉える見方の工夫を身につけ、目と手を連動させ、自然な人の姿が描けるようになることを目指す。
入門デッサン5 (イメージのレッスン)	S	選	1		自由自在の表現力を目指すためのレッスン。一人一人ですべて違う、目には見えない、自分の記憶やイメージを描く。柔らかく発想し、イメージが展開できるように、様々な表現方法を知り、表現に幅が出せることを目指す。
基礎デッサン1 (風景:樹木や建物を描く)	S	選	1		アトリエ内では味わえない、光や風、湿度、においを体全体で感じ、屋外で目の前に広がる、美しく複雑な風景と向き合う。うつろう光や風の中で、樹木や建物、街並みの景観を、なんとか画面に、見た証として、粘り強く描きこむことを目指す。
基礎デッサン2 (ヌード: 裸婦モデルを描く)	S	選	1		芸術の歴史の中で、モチーフの代表格と言える、ヌードモデルを描く。ポーズするモデルの、緊張感と美しさを感じながら、その構造やリズム、肌に生じる陰影の美しさを、時間をかけ粘り強く観察しながら、できる限り、自然な人の姿として描き止めることを目指す。
基礎デッサン3 (コスチューム: 着衣モデルを描く)	S	選	1		私たちが一番見慣れている人の姿。改めて見直すと、人とコスチュームが織りなす、形の対比や調和の美しさを感じる。そのコスチュームモデルの、顔や手の表情、布のシワの陰影の美しさなどを、時間をかけ観察を深め、ありのままに自然に描くことを目指す。
基礎デッサン4 (植物:草花を描く)	S	選	1		植物が持つ、繊細でありながらも、力強い生命感あふれる形。その形の複雑さ美しさを、感じながら描く。観察が深まれば深まるほどに、見ているままの植物の形が、見た証として画面に現れることを体感する。
基礎デッサン5 (イメージを自由に描く)	S	選	1		自分のイメージと、画材や支持体との、切り離せない関係を意識し、自由に制作表現ができるようになることを目指す。今まで描いたことがないぐらい大きな紙を制作し、思いっきり、自由に描くことの、楽しさ、開放感を体感する。

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
伝統芸術基礎1	S	選	2		<p>[伝統芸能] 歌舞伎と文楽と役者絵について学ぶ。専門の研究者が3人、歌舞伎や文楽の面白さについてわかりやすく伝える。食わず嫌いの人も、こんなに面白かったのか、と「目から鱗」であるだろう。</p> <p>[文楽] 伝統的な芸能は、従来、文献または現在残っているものが鑑賞する側から取り上げられてきた。それを演じる側の人間の講義も聞き、その中から日本人のものの感じ方、考え方、表現の仕方等を探っていく。</p> <p>[茶の湯] 茶の湯は、精神的な要素が根幹となって、一面には審美的造形的な世界を持ち、一面には手前作法から茶事の喜びという美味求心の世界まで有機的に統合される世界である。その構成は、建築・庭園・絵画・墨蹟・工芸と多方面にわたる。また、大きくは、人・場所・道具の三構成からなり、主人と客との関係で手前作法が生まれてくる。茶の湯の文化とその美について学ぶ。</p> <p>[煎茶・小川流] 風雅な喫茶の楽しみは平安時代に始まるが、煎茶の遊びが地歩を固めるのは、江戸時代以降である。「煎茶は文人の余技」とも言われ、最初は画家、書家、篆刻家、陶芸家等の芸術家をはじめ詩人、文学者等に愛好され次第に独自の世界を形成し、煎茶を楽しみながら互いの才能を切磋琢磨した。もう一つの茶道として、その自由で闊達な伝統精神を継承しながら、その核になる「美味しい茶味」の技法を学ぶ。</p>
世界単位研究基礎	S	選	2		<p>「国境」をとりのぞいて世界を見つめ直してみれば、世界の単位はどのように見えてくるだろうか?という疑問からはじめてみる。そうすると生態型、ネットワーク型、大文明型、混住型というような世界の単位が見えてくる。同時に「近代」の意味も見えてくる。「世界単位論」の提唱者からその成り立ちについて学ぶ。</p>
世界単位研究1	S	選	2		<p>世界単位は、そこに暮らす人たちが共通の世界観をもっている地域の広がりです。人と自然、人と人の関わり方などによって、「生態型」「ネットワーク型」「コスモロジー型」などの類型が見いだされる。世界を股にかけるフィールドワーカーによって観察された、世界の知られざる姿を紹介する。この科目では、東南アジアの自然と暮らしに注目し、アジア世界のこれまでと未来について考える。</p>
世界単位研究2	S	選	2		<p>世界単位は、そこに暮らす人たちが共通の世界観をもっている地域の広がりです。人と自然、人と人の関わり方などによって、「生態型」「ネットワーク型」「コスモロジー型」などの類型が見いだされる。世界を股にかけるフィールドワーカーによって観察された、世界の知られざる姿を紹介する。この科目では、世界単位論の視点から、現代社会と世界との関わり方の未来を構想する。</p>
流域生態研究1 (多摩川流域)	S	選	1		<p>流域は自然環境と文化の単位空間。ふだん意識することはあまりないが、おなじ流域に住まう人々と生きものたちは、運命共同体でもある。この科目では高尾山など多摩川流域の自然環境をたずね、そのつながりを考える。</p>
流域生態研究2 (淀川・桂川流域)	S	選	1		<p>流域は自然環境と文化の単位空間。ふだん意識することはあまりないが、おなじ流域に住まう人々と生きものたちは、運命共同体でもある。この科目では桂川上流部の自然林や下流部の淀川に生息するイタセンパラなど、都市に近接した貴重な自然をたずね、その価値と私たちとのつながりを考える。</p>
流域文化研究1	S	選	1		<p>流域は、川を介して人々をむすびつけるものでもある。ひとびとの関わりは、時に上流下流の対立としてあらわれ、時にそれを乗り越える共感としてあらわれる。この科目では、治水、利水、環境の各側面での上下流の文化的社会的関わりに焦点をあて、流域の課題とその解決に向かう人々に迫る。</p>
地域表現演習1～4	S	選	各1		<p>地域ごとの特性に応じた「芸術」活動を、学生個々の専門領域を横断して実験的に遂行する。さまざまな場所での人的交流や風土の体験を通じて、芸術の新しい概念を探求し、全国的な芸術運動の可能性を探る。</p>
フィールドワーク 実践研究(黒田村)	S	選	2		<p>京都の母なる川「桂川」の最上流部に近い黒田地域は、古代より木材の供給地として朝廷の直轄領として都と関わり続け、独特の文化性を育んできた。この科目では、地域の祭りへの参加等を通じ、地元の人々へのインタビュー実践やマッピングを通じて、地域のありようを記述する「技」を身につける。</p>
地域コミュニケーション 研究	S	選	2		<p>地域を生き活きとさせていくには、その今のありようをつかむことと、人々のアイデアをひきだし形にしていけることが必要。地域の姿をつかむ方法として日に日に存在感を増しているGISの基礎を知るとともに、コミュニティ・デザインの現場で用いられるワークショップの考え方と技法を学ぶ。</p>